

かみごみょうじょうりすいでん し  
上五明条里水田址

vol. 3

長野県埋蔵文化財センター

## ●令和4年度の調査が始まりました。

4月15日（金）から、調査員3名と作業員12名で調査を開始しました。発掘調査は、11月末までの予定ですが、6月～8月は湧水のため、現場での作業は休止となります。

今年度は、昨年度調査区の北西側を調査します。昨年度の続きとなる、集落遺構や、水田関連遺構の発見が予想されます。



昨年度調査区遠景（南西より）

## ●昨年度の調査成果

昨年度の調査では、地表下約1.5mから、竪穴建物跡18軒を主体とした平安時代後期（約1000年前）の集落跡がみつかりました。建物の形状は、ほとんどが隅丸長方形や隅丸方形で、カマドを建物の東壁南寄りに造るものが多いという特徴がありました。建物内からは、刻書土器や帯金具などの様々な遺物が出土しました。

また、地表下約2mから、千曲川の氾濫砂層に覆われた水田跡がみつかりました。



調査の様子



平安時代の竪穴建物跡



竪穴建物跡から出土した刻書土器



洪水砂で埋まった水田跡

## ●平安時代の竪穴建物跡と溝を発見！

今年度の調査区北東側で、平安時代の竪穴建物が一軒みつけられました。一辺約6m×5mの隅丸長方形で、深さは30センチメートル程です。

東壁の南隅近くのカマドは、すでに壊され、支脚や煙道は確認できませんが、堆積した土には炭化物や焼土が含まれています。また、カマド付近の埋土からは焼け跡の付いた石が多く見つかっていて、カマドで使われていたものかもしれません。石材は、ほとんどが遺跡周辺で容易に手に入れることができたものでした。

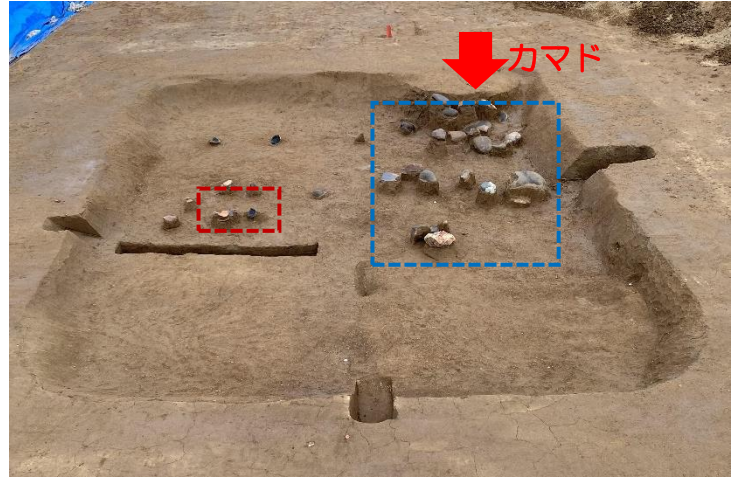
竪穴建物跡の床面は、非常に堅くたたき締められていて、床面の上からは、杯や椀などの食器が出土しました。

建物跡からは、屋根などの上屋構造を支える柱穴は確認できませんでした。平安時代後期になると、柱穴のない住居がみられるようになります。この建物跡は、縄文時代から続く「柱を立てる構造」から、現代の建物にも多く用いられているような、「壁で支える構造」への転換期を迎えた建物なのかもしれません。

なお、竪穴建物内の埋土の様子から、この建物が人為的に埋め戻されたことが分かりました。

また、調査区の北西側からは、6条の溝が見つかり、そのうち1条は集落が営まれた時期と同時期のものでした。

調査は9月から再開します。今後どんな発見があるのか楽しみです。



平安時代の竪穴建物跡（西より）



土師器の杯や椀



埋土中に散らばる川原石



平安時代の溝跡

上五明条里水田址 発掘たより 第3号（令和4年6月1日）  
長野県埋蔵文化財センター 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

Tel 026-293-5926 IP <https://naganomaibun.or.jp/>

調査担当：市川隆之・水科汐華・酒井実姫